

春爛漫、石舞台地区の史跡を巡る

歴史サークル4月の月例会を開催

飛鳥里山クラブ・歴史サークルの令和7年度（2025年度）最初の月例会（27期担当）が、4月18日（金）実施されました。【第30期生歓迎例会としてコース4の歴史ガイド～石舞台古墳周辺地区の案内～】と題したもので、新しく加入した4人の30期生ら23人が参加しました。

明日香村立部地区の「定林寺跡」を皮切りに川原地区の「亀石」、「川原寺跡」、橘地区の「橘寺」、島庄地区の「島庄遺跡（島宮跡）」、「石舞台古墳」、阪田地区の「都塚古墳」「坂田寺跡」を、13期生から28期生まで6人のガイドにより進められました。

参加者は、定林寺跡の地表下約2mの深さに埋められた巨大な心礎や、一枚石の亀石の大きさとその伝説にふれ、川原寺の創建時伽藍が飛鳥寺にも引けを取らない規模だったこと、橘寺の建立のきっかけになった「聖徳太子伝説」や、ミカンの原種となった「橘」をもたらした「田道間守（たじまもり）伝説」などの物語に耳を傾け、飛鳥時代にタイムスリップしたような気持ちになりました。

また、島庄遺跡（島宮跡）が、飛鳥川西岸、石舞台古墳の境界にまで広がる広大な遺跡



石舞台古墳をバックに30期生4人を囲んで記念撮影

であったことや、発掘跡から見つかった方形池が、水利の役割を果たしていたのはいかという解説にうなずいていました。

蘇我馬子の「桃原の墓」とされる石舞台古墳が冬野川と飛鳥川が合流し、飛鳥地域を見下ろす絶好の立地にあること、都塚古墳が、別名「金鳥塚」と呼ばれる伝説やピラミッド型の特異な形を有してい

ること、横穴式石室内に安置された家形石棺を直に見ることができる貴重な古墳であることなどの説明がありました。さらに創建当時の飛鳥時代、坂田寺は、渡来系氏族が建立した、日本で最初の僧・善信尼ゆかりの非常に重要な尼寺であったことなどが語られ、参加者は飛鳥時代に思いを馳せました。

この日の明日香は花曇りの空で、ソメイヨシノはほぼ散っていましたが、定林寺参道のハナモモ、川原寺跡のヤエザクラなどが、訪れる人を優しく迎え、春爛漫の飛鳥を満喫しました。なお、次回の歴史サークル定例会（28期担当）は来る5月16日（金）、平田地区の「猿石」から「中尾山古墳」までの史跡コース「高松塚古墳周辺地区」を巡ります。詳細は『飛鳥里山クラブ通信』に掲載します。奮ってのご参加をお願いします。

史跡ガイドの模様です。



亀石の説明



川原寺跡



島庄遺跡（島宮跡）



石舞台古墳の東展望台



都塚古墳



定林寺のハナモモ

川原寺跡のヤエザクラ



坂田寺跡

毎年4～6月は2～4年目の修了生のコース習熟とガイドスキル向上を目的に開催しています。

（写真提供：佐々木勉 16 期、北佳史 20 期、文と写真：佐藤安市 27 期）